

かんしゃこ あづみのか
感謝込め 安曇野駆ける

年 組 名前

安曇野市の^{せいか}聖火リレーで、県立こども病院で生まれ、元気に^{たいいん}退院する男児として世界最小となった^{せきのりゅうすけ}関野 竜 佑ちゃんの兄、^{ゆうへい}佑平さんがランナーを^{つと}務めました。記事を読んで、聖火リレーに込めた佑平さんの思いについて考えてみましょう。

①佑平さんは、安曇野市で何番目のランナーですか。

②聖火を次の走者につないだ後、佑平さんはどうしましたか。

③走り終えた佑平さんは何と希望を語り、竜佑ちゃんに何を期待していますか。

④あなたが聖火リレーのランナーだとしたら、どんなことを願って走りたいですか。

感謝込め 安曇野駆ける

ゴール後に弟抱く一幕も

世界最小で誕生の男児
関野竜佑ちゃんの兄佑平さん

安曇野市の聖火リレーでは、県立こども病院（安曇野市）で2018年に体重258gで生まれ、元気に退院する男児として世界最小となった関野竜佑ちゃん（9）の兄、佑平さん（14）が6番目のランナーを務めた。両親と竜佑ちゃんら家族5人が見守る中、感謝の気持ちを込めて駆け抜けた。

竜佑ちゃんは父の康平さんに5時40分ごろに佑平さんの姿が抱かれ、母の俊子さん、長女の彩佑子さん（9）、次男の隼佑君（6）とともに6番目のゴール近くで佑平さんを待った。午後、康平さんは「お兄ちゃんが走る

姿を真剣に見ていたのかな」と話した。

聖火を次の走者につないだ後、佑平さんは竜佑ちゃんを抱いて「走りました。見てた？」と優しく語りかけた。俊子さんは「地域やこども病院の方への感謝を込めて一歩一歩走ったと思う」と話していた。

俊子さんによると、こども病院の関係者は感染予防のため、応援に来られなかった。2歳6カ月の竜佑ちゃんは、1歳10カ月から歩き始め、好奇心旺盛で外もよく歩くという。竜佑ちゃんの担当医師からは、テレビやオンラインを通じて応援すると伝えられたといい、俊子さんは「日々元気いっぱい成長し、大きくなった姿を見てくれたらいいなと思う」と話した。

走り終えた佑平さんは「いろいろな人に竜佑を助けてもらった。今度は自分が助ける番。将来、人を助ける仕事をしたい」と希望を語り、「竜佑にも成長してもらい、人に貢献できるような大人になってほしい」と期待した。



トーチキスを終え、竜佑ちゃんを抱く佑平さん（左）安曇野市

かんしゃこ あづみのか
感謝込め 安曇野駆ける

解答例

年 組 名前

安曇野市の聖火リレーで、県立こども病院で生まれ、元気に退院する男児として世界最小となった関野竜佑ちゃんの兄、佑平さんがランナーを務めました。記事を読んで、聖火リレーに込めた佑平さんの思いについて考えてみましょう。

①佑平さんは、安曇野市で何番目のランナーですか。

【答え】 6番目

②聖火を次の走者につないだ後、佑平さんはどうしましたか。

【答え】 竜佑ちゃんを抱いて「走りました。見てた？」と優しく語りかけた

③走り終えた佑平さんは何と希望を語り、竜佑ちゃんに何を期待していますか。

【答え】 いろいろな人に竜佑を助けてもらった。今度は自分が助ける番。将来、人を助ける仕事をしたい

（竜佑にも）成長してもらい、人に貢献できるような大人になってほしい

④あなたが聖火リレーのランナーだとしたら、どんなことを願って走りたいですか。

【答え】 略